

## 第370回放送番組審議会

1 日 時 2016年11月15日(火)16時～17時30分

2 場 所 tvk 第1会議室

3 委員総数 8名 出席者7名、欠席者1名 五大路子委員

出席委員; 山田一廣委員長、布施勉副委員長、白石俊雄委員、林義亮委員、伊藤有壱委員、  
二宮務委員、吉川知恵子委員  
tvk;中村社長、熊谷コンテンツ局長、神谷ディレクター、玉村編成部長

4 議 題 (1)放送番組

資料:①11月のタイムテーブル

②11～12月、2017年始の特番一覧表

(2)視聴合評

「神奈川ビジネス Up To Date」

2016年11月7日(月)午後9時～9時30分

(3)その他 報告事項

・視聴者対応

報告期間:2016年10月15日(土)～2016年11月11日(金)

・第369回(10月)放送番組審議会の議事報告

(「猫のひたいほどワイド」2016年11月8日放送VTR)

5 議事内容 2ページ以降に記載

6 審議期間の答申または改善意見に対してとった措置及びその年月日

7 審議機関の答申または意見の概要を公表した内容・方法及び年月日

(1) 2016年11月8日(火)「猫のひたいほどワイド」(12:00～13:30)の

「放送番組審議会からのお知らせ」コーナーで審議内容を司会者が報告

(2) 審議概要を当社インターネットホームページに掲載

玉村編成部長            それでは定刻になりましたので、第370回の放送番組審議会を始めさせていただきます。山田委員長、お願いいたします。

山田委員長            それでは始めさせていただきます。早いもので11月中日を迎えました。今日、ここに来る前に日本大通りを歩いてみたんですけど、海岸に近い方が黄金色に色づいていまして、横浜スタジアム側はまだ緑色が濃いような感じに残っております。太平洋の向こうのアメリカ大陸でいろいろなことが起こっておりますけれども、日本の秋は確実に歩みを進めております。それでは第370回目の番組審議委員会を始めさせていただきます。では、中村社長の方からお願いいたします。

中村社長                はい。どうもお忙しいところ、また足をお運びいただきましてありがとうございます。大体いつも委員長と言うことは一緒なんですけど、太平洋の逆に日本海の向こうもえらい騒ぎになっているようでございまして。こうやってみると、こんな日本がまっとうに見えてくるというのも変だよなという気もいたします。逆に言うと、何が起きてもおかしくない世の中なのかなという意味では、本当に不確実性がまた深まっちゃったかなという気もするわけでございます。こうしたアメリカも韓国も、影響がどうなってくるのか。なんかちよっとやばいような気が正直言ってしておりますが、我々も地方局という立場から、そこら辺のところを注視していきたいと思っている今日この頃です。今日もよろしくお願いいたします。

山田委員長            ありがとうございます。それでは本日の議題に沿って進めてまいりたいと思います。まず最初に、放送番組について。お手元の11月のタイムテーブル、11月から12月にかけての特番一覧表、これを参照していただきながら、事務局の方からお願いいたします。

玉村編成部長            本日は取締役の押川が欠席でございますので、私一人でさせていただきます。

す。よろしく願いいたします。まず11月の番組表でございますが、今月は神奈川県広報番組「カナフルTV」を表裏でご案内申し上げております。おめぐりいただいたところが、秋の高校スポーツでございます。おととい高校サッカー県大会決勝が終わりましたが、サッカー、バレーボール、ラグビーといったところの決勝、準決勝の中継がこの時期に集中しております。それからその下はラグビー中継、そして本日ご批評いただきます「Up To Date」。また、今年一年行ってまいりました、「川崎競馬中継」のご案内です。もう一枚めぐっていただいたところが番組表になっております。新しい番組はさほどございませんけれども、11月の1日、2日、3日にサブチャン032の方で、先ほど申しました「川崎競馬中継」を、特に3日の祝日は非常に長い時間というのが、編成の大きな特徴でございます。続きまして、こちらの最後のページですが、11月に始まりました新しい番組としては「リサとガスパール」というお子様向けの番組、朝の8時からです。それから MUTOMA という番組からのスピンオフでお城の番組、台湾の海外ドラマ、新しく始めました漫画を原作としたドラマのご案内をしております。一番下のところには、私どもでやっております横浜イングリッシュガーデンの、来年のカレンダーのご案内をしています。これについては、後ほどお手荷物になりますけれども。

中村社長

今日は一部ずつ、来年のカレンダーをお持ち帰りでご用意しております。

玉村編成部長

続きまして、「特別番組一覧」の方に移ります。11月後半からですが、先ほど申し上げた部分、ラグビー中継と競艇。例年やっております12月4日は、静岡県と神奈川県の少年野球中継の試合になります「クラストカップ」という野球大会。12月4日には「KANAGAWA 高校野球 SPIRITS」という、高校野球の特別番組。これも例年放送しておりますが、こういったものを放送してまいります。それから12月11日、これも例年やっておりますが、全日本少年サ

サッカーの県大会の様。同じく11日の6時半は、川崎フロンターレのチャンピオンシップ出場が決まっておりますので、12月3日のチャンピオンシップ、ファイナルステージでの結果次第で、もし優勝しましたら、優勝をお祝いする番組を放映したいということで予定をしております。12月も川崎競馬中継のサブチャンネルでの放送がございます。神奈川県議会の中継。めくっていただきまして、12月23日、それから1月に入ってもう1試合、Bリーグの中継を編成いたします。今年度から始まりましたリーグでございまして、後ほどもご覧いただきますけれども、地元の川崎のチームと横浜のチームのホームゲームを1試合ずつ、今年度放送制作したいと考えております。それから12月28日以降は高校ラグビー全国大会のハイライトと、飛びまして12月31日から高校サッカーの全国大会が始まってまいりますので、地元の桐光学園の壮行番組から開会式1回戦と、始まっております。前回お話申し上げました、三浦大輔、それからベ이스ターズの特番は12月31日というところで準備をしております。例年放送しています、ビルボードの年間チャート、これも12月31日に放送。年越しの例年特別番組を行いますけれども、今年の12月31日は夜11時から翌日の1時半まで「おまえ、テレビでてるってよ！」というタイトルでチャレンジしてまいりたいと思います。1月に入りましたところでは、例年特別番組として放送しております、各市町村長のご挨拶「テレビ年賀状」から、横浜市長の特別番組、川崎市の特別番組等々ございます。次のページにいったところで、「しゃかりき」ですとか「キンシオ」ですとか、1月1日から「銭湯物語」という5分の番組の、特別番組を構えております。後ろから3つ目、1月3日にBリーグ中継、これが横浜ビー・コルセアーズです。簡単ですが、以上です。

山田委員長

ありがとうございました。事務局から11月の番組について説明がございまし

たが、これについて何かご意見、ご質問等ございましたら。

伊藤委員 いいですか。

山田委員長 はい、どうぞ。

伊藤委員 質問ですが、12月31日の年越し特番「おまえ、テレビでてるってよ!」。ユニークな番組そうですが、特に内容的な特色があれば教えてください。

玉村編成部長 例年この時間帯は、ここ数年、いろいろなたとえ「あっぱれ! KANAGAWA 大行進」であったり、「saku saku」だったり、そういったもののスピノフ的な番組でやってきたんですけども、今年はオリジナルの番組でやっていこうということで検討いたしました、検討した結果こういったことで。よろしければコンテンツ局長の方から。

熊谷コンテンツ局長 はい。中身的には改めて、ローカル局ということもありまして、なるべく多くの視聴者の方に番組に出ていただくということで、2017という数字にちなんで、2017人にインタビューするという目標にしています。一辺にということも、グループということもありますし、その中にベイスターズのファンだったり、サッカー、小学校や、学校だったりというところで、たとえば「目標を持っている」「今年できなかったこと」「来年やってみたいこと」というようなテーマを設けて、2017人の方々にインタビューするという形式になっています。単純に自分が出ていると、年末だけ、ふらっといろんなザッピングをしながら、「自分が出ているなら、見てみるか」という気になるのではないかと。原点に戻った形の年越しになれば。それから MC なんですが、ご存知の方は少ないと思いますが、「水溜りポンド」という二人組になります。今流行りの You Tuber と言われている方で、ネット上で大活躍している方です。わかりやすく言ってしまうと、今「You Tube」ってネット上の画面で、いろんなチャレンジをしている二人組ではあるんですが、お笑い芸人では全くなくて、言うなれば素人ではあ

るんですけども、「You Tube」というところで何億ページビュー、何億人の方々が見ていただくような、面白い動画を作成されている二人組です。今だいぶ話題になっていますので、もし検索していただければと思いますけれども。中身としては、ネット上の動画というと、なかなか親がいないと見にくかったり、お子さんだけでは見にくかったりということもあると思うんですけども、今、小中学生、高校生に非常に人気がある二人組ということで、一度動画の方をご覧になっていただければと思います。彼らがテレビに出るのは初めてです。ですので、ナビゲーターという形で、2017人のインタビューをフォローしていただくという番組になると思います。

山田委員長                      ありがとうございます。よろしいですか。12月8日、9日、「荒木又右衛門 伊賀の決闘」「平手酒造 利根の決闘」なんて懐かしい名前が出ていますが、これは、購入してまでやる背景は、どういうものがあるんでしょうか。

玉村編成部長                    通常の番組表をご覧いただくとわかるんですが、通常ここはテレビショッピングをやっている放送時間なんです。ずっとテレビショッピングをやっていると、なかなか一定の方しかご覧いただけない部分がありますので、時折こういう特別番組を購入してまで放送して、視聴習慣、視聴率を上げたいというのが一つの狙いです。

山田委員長                      はい、わかりました。他にございませんか。

林委員                            「銭湯特番」って、どんなものですか。

玉村編成部長                    今、実はレギュラーで5分の「銭湯物語」というものを、この4月から放送を始めまして、月曜日の夜10時55分からの5分間、ここでレギュラー放送してまいりました。神奈川県のお銭湯、いわゆる昭和の香りのする風俗、そういったものを「キンシオ」でおなじみのキンシオタニさんが1軒1軒回って、お店の人にお話を聞いたりとか、うんちくを少し話したりということをしています。これを年

末年始で特番的にやっていくという試みです。

中村社長 普段短いものでやっているのを、重ねてまとめて放送しようという。

林委員 一緒にして。わかりました。

山田委員長 他にございませんか。ないようでしたら、2番目の視聴合評の方に移りたいと思います。

#### 視 聴 合 評

山田委員長 ありがとうございます。「神奈川ビジネス Up To Date」は、以前も鎌倉の「鳩サブレー」のオーナーを紹介した番組もありました。今回はディレクターの神谷さんが参加されていますので、この番組について改めてお聞かせいただければと思います。

神谷ディレクター 改めましてよろしく申し上げます。ディレクターを担当しております神谷と申します。私自身立ち上げからまさに、鳩サブレーの回も私が担当させていただきました。いろいろご意見をいただいて、立ち上げからやっていく中で、いろいろ試行錯誤を重ねながらやっております。番組がスタートして1年半になるところです。のべ150社ほど企業様にご出演いただいて、大分アーカイブという形でも、整ってきたかなという状況です。番組のテイスト、コンセプトという意味では、最初から変わらず神奈川県のみなさんに、「こんな企業があるんだ」「こんな面白い企業があるんだ」ということを知っていただくことを第一に置きながら、ある意味で視聴者を具体的に考えたときに、社員の方だったり、その関係する方が見ていただいて、且つたとえばお父さん、お母さん、息子、娘が働いている会社をどう見ていただけるかというところも考えながら、編集するようには心がけています。やっと出演していただいた企業さんや、これまでの関わりの中にご出演いただいた企業さんと番組が、またイベントを打っ  
ていこうという話もだいぶ盛り上がってきたところなので、1年半ここまでやっ

てきた中で、いろいろご意見をいただきながら、より深めていきたいなと思っております。前回からの大きな変更点と言いますと、まず放送時間が変わりました。前は木曜日よる10時。「カンブリア宮殿」の裏でやっていたんですが、この4月から月曜日よる9時、月9の時間帯と、土曜日23時の再放送という形で、週2回放送しています。なるべく多くの方に見ていただきたいという思いもありながら、編成の方は考えていただきました。あと大きな変更点として、キャスターという立場で、女性二人、アナウンサーであったり、もう一人別の方にご出演いただいていたんですけれども、一人ということで、経済ジャーナリストの内田さんに絞りました。いろいろなご意見があった中での判断だったんですけれども、20分という、「ビジネスのヒゲ」のコーナーもあるので、20分という短い枠の中に、いかにシンプルに伝えられるかという部分での変更と、内田さんと社長の対談の中で、よりライブ感を出していきたいという思いの変更になっております。後はいくつかコーナーを減らしたりという部分があるんですけれども、主にメインのインタビューコーナーと、商品、サービスに特化したビジネスのヒゲ、今回は燻製工房でしたが、三越さんがマレーシアに出店する際にもお声掛けいただいている会社さんと、皆さんが知らないような企業を紹介する。よりニッチな部分で紹介するというコーナーでやっています。概要としてはそんなところなんです。今回の横浜ビー・コルセアーズに関しては、特にスポーツビジネスということで、他の企業さんとはちょっと違う部分はありましたけれども、一番伝えたい部分としては、スポーツビジネスはとにかく勝たなきゃいけないんだ。でもスポーツをやる上ではファンがいなければいけないんだ、どうやってファンを増やしていくんだ、どうやって、先ほど岡本 CEOもおっしゃっていましたが、いろんな応援してくれる人を増やしていくのかという部分の戦略みたいなお話をご紹介できれば、いろんな企業さん



にも参考になる部分があるんじゃないかというところで構成をしました。バスケットボールを扱うスポーツ番組に寄りすぎず、でもバスケットを削りすぎずという部分で、ちょっと悩んだところではあるんですが、一応ビジネス番組、経済情報番組なので、その部分、戦略部分で2点紹介しております。よろしくお願ひします。

山田委員長

ありがとうございました。それでは委員の皆さんにご意見をいただきたいと思ひます。今日はちょっと趣向を変えまして、順番を変えます。バスケットと大学の経営とは同じ土俵では語れませんけれども、経営の一翼を担ったご経験がある布施さんからお願いいたします。

布施副委員長

面白かったよ。非常に興味深く見ました。スポーツビジネスといった場合に、そういうスポーツ球団の経営なんて頭になかったんですが、そういえばそういうのがあるなと、興味深く思ひました。ただもう少し整理した方が。ただバスケットやってというだけだと、こんなものどこでも、小学校でもやっているわけでしょう。それがプロの球団として、どういふようなものなのか。つまりひとつはそこで観客といふか、一人でもファンを増やさないといけないから。そういう意味で、構成をもうちょっと考えたら面白かったんじゃないかな。ただ漠然とバスケットをやっていて、ただネットに入れるといふんじゃないくて、「おらが町にもそういうのがあるんだよ」と。「じゃあ見に行こうか」と、もうちょっと考えればいいんじゃないかと。その点に関連して、野球もそうだったんだけど、初めはおじさんとか、男の子は野球していたけど、女の子とか家庭の主婦なんて野球なんてルールも知らないし、何も知らないしって。典型的な例が私の女房なんです。ところがなんだかんだ言っているうちに、見る方がすごくなっちゃって、今や監督批判からコーチ批判から。こないだの全日本のときだって「小久保はだめだ。あんな監督やめさせろ」とか言っているわけ。つまりそういう風に家

庭の主婦や女の人、つまり球を握ったこともない人も結構いろんなことを知って見ているから、野球のファンは底辺が厚くなってきているわけ。現在のアメリカよりもひょっとすると野球大国じゃないかと思うぐらい、日本のスポーツ人口って上がってきているでしょう。バスケも同じじゃないかな。アメフト、バスケ、野球っていうのは三大スポーツで、どれって決められないほど盛んなんだよね。日本でもバスケって絶対面白くなるはずなんだけど、特にビジネスというところから見てみると。ただやっているだけじゃないところが。そう思って、面白かったけど、もう一歩かゆいところに手が届かないというか、イライラっとなりました。個人的にはそうでした。だけど非常に面白くて、あれをもうちょっと練ると、素晴らしい番組になると高く評価します。もう少しですね。

山田委員長

ありがとうございました。いろいろ反論したいこと、これすみません、最後に神谷さんの方からお願いしたいと思います。では続きまして林さん。

林委員

はい。バスケットボールっていうのは、まだ小さいじゃないですか。そういったところの運営を手掛けている社長さんが、どんな考えでいるのかとか、アカデミー事業だとか、イノベーション事業。そういったことを進めて、ファン層を拡大していくというか、「模索」ということをおっしゃったけど、そういったやり方で非常に悩んでいらっしゃるというか。かなり厳しい道だと思うんだけど。それがよくわかって。僕は「ブースター」という言葉は、最初「えっ？」って思ったんですけど、ファンのことで。そういった方、選手の方、小中学生の声を拾ってあったし、何とかバスケを盛り上げようという、そういう声は伝わってきたと思うんです。注文をさせていただくと、岡本さんはいろんな、茨城ゴールデンゴールズなんかをやっていらしたということでしたけど、ちょっと経歴がパツと出ましたけど、なかなか目で追えないぐらいの速さで消えちゃって。言葉は悪いけど「再建屋」みたいな感じを受けたんですけど、彼がどんな熱意でこれを引き

受けたのかということ、もうちょっと話してもらえれば、人間的なあれが出たかなと。そこまで、カットされたかどうかは知りませんが、ちょっと聞きたかったなと思いました。それから横浜市内のプロチームを応援する熱闘倶楽部つてありますよね。4つのチーム。それがほとんど言葉が出てこなかったんですが。それは意図的に熱闘倶楽部の話題を外したのかどうか。それとの関わりの中で、バスケットチームをどう伸ばしていくのかということ、少し話してほしかったなという気がしました。それと試合の日程について、キャプションでもなんでもいいんだけど、教えてもらえれば、試合に「勝ちにこだわる」とおっしゃっていたので、それであれば、次の試合はいつなのか、そういった試合の日程や会場を教えてくださいようなコーナーがあってもよかったのかなと思いました。これは最後ですが、ショーアップってなかなか難しいと思うんですよね。やはり野球とか、サッカーは後発ですが、かなり定着していますので。業界全体として、この社長の考えはわかるんですが、バスケットリーグ全体の取り組み。熱闘倶楽部とも重なってくると思うんですが、業界の声というか、見方を知りたかったなと。それからこのビデオには出ませんでしたけど、「ビジネスのヒゲ」のところで、あの会社って、マレーシアで、さっき伊勢丹という言葉でふっと思ったんですが、地方創生で国がいろいろやっている、クールジャパン事業の一つですか。

神谷ディレクター クールジャパンには入っていないで、あくまで伊勢丹さんのバイヤーさんが「いいものを持っていく」という一つの流れだったというふうには聞いています。

林委員 わかりました。

山田委員長 ありがとうございます。続きまして伊藤さんお願いします。

伊藤委員 前回、鳩サブレーの企業さんのときと、また印象がずいぶん変わって、企業の顔だけ、その接し方とか話し方が変わるという意味では、見れば見るほ

ど面白いだろうかと、そういう楽しみ方をしました。番組そのものが持っている温度感というのが、わりと今回温度が低いなど。これは岡本さんの語り口がクールで、冷静で落ち着いていたというのがあったんで、もっとスポーツに関わるのであれば、マネージャーであっても、もっとアグレッシブでもいいのかなと思ったんですけど、それが特徴だなと思いました。そういう側面が見えるのはとても面白かったです。そして選手の宣伝ばかりしているよりは、側面を全部見せてくれる冷静な方だなということがわかりました。その上で思ったのは、内容は一通りきちんと理解したつもりなんですけど、バスケットと言ってもたとえば現在ビー・コルセアーズが5位だったりとか、また変動したり。決して神奈川県内で1チームじゃなくて、隣の市にすらもチームがあって、彼らが今やっていることは、本当にエリアがかぶるんじゃないかと。その企業間の経営という闘いということについて、少し触れてくれたら。特に数字とかを、若干でも出してくれたら、もう一步グッと核心に迫った気がします。冷静に話してくれたんですけど、もう一步核心の情報が、実はほしかった気がしました。番組そのものの流れでいうと、内田さんがまとめを熱く語ってくれたんですけど、内容的に少し繰り返して終わってしまって、ちょっと逆にその時間をもうちょっと。まとめがまとめになっていなかったという印象が残念です。私も燻製の話をもっともっと見たかったです。

山田委員長

ありがとうございました。続きまして二宮さんお願いします。

二宮委員

見て感じたままを、4つ感じましたので、そのまま申し上げます。一つは番組の冒頭に「勝利への期待を、経営ビジョンを通じてお知らせします」ということで、その通りで、自分もバスケットが好きなんです。それで自分の勝手な思い込みと差があったということで。一つは勝利への期待という面では、素直に考えると、主力メンバーの紹介や戦力分析、リーグでの相対的なチーム力、そ

ういったことがあるのかなと思ったら、そういうところがなかったの。チームのコンセプトとして「豹変」をコピーして「噛みつくんだ」という話でしたが、それだけでは多分勝てないですね。どういうふうに勝っていくか、勝利への期待というところは、自分としては不満でした。それから経営ビジョンという面では、アカデミー事業、ブースターへの株などいろいろ努力されていて、スポーツビジネスは興味深い話なんです。Bリーグがどういう機構で、どういうふうに全体的に決められているのかということも。財務の変遷が良くなってきたと、印象として。最初は赤字で良くなってきたと言われたんですが、それがどういう変遷をしてきたのかということがないので。これは話だけじゃなくて、フリップを使って、目で説明していただけるとわかりやすくなった。これは自分なりに不満を感じました。二つ目ですが、内田さんはおさらいを最後の方にしたんですが、今も伊藤さんは「同じことを言われた」と言いましたが、私としてはこれは結構いい。なんでかという、岡本さんは「人を集めることがまず第一だ」と言われたんですね。私は勝つことが大事だと思って聞いていたもの。ですから、内田さんがそういうことを言って。インタビューと逆のことを言うのか。かなと思ったんですが、おさらいとして私は良かったと思います。番組の最後の「ビジネスのヒゲ」、あれもなかなか面白くて、もうちょっとあれを。最後まで飽きさせない。4つ目、これは総体の感想です。県内で活躍している面白い企業経営者の話を、毎週凝縮されて、非常に意義のあることで。tvkの経済番組の柱として、続けてもっともっと成長させたらいいんじゃないかと思いました。これは取り上げられる側の企業、企業の選定は公共電波を使っている以上は慎重にやるべきであって、後で教えていただきたいんですが、どういう基準で150社選定されているのか、これは重要だなと感じました。限られた時間の中で、ゲストからの的確に話を聞き出すというアナウンサーの方、あの

方の能力は番組の肝かなと感じまして、非常に重要な位置づけであります。  
テンポよく、わかりやすく進められていて、私としては結構好感を持ってました。  
全体的には、大変いい番組ではないかなと思いました。

山田委員長

では、続きまして白石さん。

白石委員

私、バスケットはよくわからないんですが、2011年にプロ化して2016年5年  
足らずで立ち上げて、ということはよくわかりました。それでこれから感動を与  
えたり、勝ちにこだわるとか、そういう指導をしてきたこともよくわかりました。経  
営者の方針をこの30分で我々がくみ取るのは、その程度でいいかなと思っ  
ているんですが。我々がバスケットに小遣いを出して見に行くためには、たと  
えばプロになった選手たちのポケットマネーの部分は、外国の人たちが入っ  
てきますが、あの人たちにどのぐらい支払っているのか。それからそれを目指  
す人が、どのぐらいブースター、ファンの中にいるのかどうか。それにはファイ  
トマネーは非常に重要なことじゃないかと思ったんですね。布施さんもお話し  
ていましたが、野球もサッカーもみんな多分そうだと思うんですけど、誰かス  
ーパーリーダーを作っておいて、その人たちが「そんなにももらえるのか」とい  
うところは捨てられないポイントじゃないかと思いました。アメリカなどではバス  
ケットをやっていますね。日本も小学校でも授業や部活でやっていますね。  
プロの技は、次の回でもいいんですが、魅せる、感動を与える技はどういうも  
のなのか。バスケの選手になりたいということを経営者や監督を含めて。それ  
から入場料がどのぐらいなのか。子供たちはもっと安くしているのか、私は行  
ったことがないのでわからないのですが、魅力あるバスケにするためにはそう  
いうところも教えていただきたいなと思います。

山田委員長

ありがとうございました。続きまして吉川さんお願いします。

吉川委員

まず最初に、以前見せていただいた当番組、前は女性アナウンサーとキャス

ター二人でインタビューしていたところから、キャスター一人に聞き手が代わったのは大変スッキリして良いと思いました。その上でなんですが、やはりキャスターの人が非常に鍵を握っているというところで、私は多少厳しいことを言わせていただきたいです。簡潔に言えば、もうちょっとインタビュー能力を磨いてほしいというのが根底にあります。具体的には肝心なことを自分で言うてしまうんですね。たとえば「資金集めに苦勞した」という話で、これを「どうやって資金集めをしたんですか」ということを聞いてもらいたいのに、「これは一生懸命回った」と、ご自分で答えをインタビュアーが言っちゃっているんです。もう一つも、「株をブースターたちに買ってもらった」という話の結果、「当事者意識を持って見てくれるようになった」。これもキーワードだと思うんですけど、これも自分で言っちゃう。法廷の尋問でも、誘導尋問は証拠価値がないと言われているように、イエス・ノーだけを相手に言わしても説得力がなく、インタビューの対象者に自らの言葉で語ってもらうのが必要なのに、キャスターが自分で答えを出してしまっている。これはやはりインタビューの手法としては、あまりよろしくないかな。ブースターに株を買ってもらったのが再建の第一歩の非常に重要なエポックだったとしたら、じゃあどうやって市民を説得したのか。そんなもう紙屑になっちゃっているものを一つ一つ回って、殺し文句というか、要するにみんなの気をこちらに向けた、最後の殺し文句は何だったのかというところまで切り込んで聞いてほしかったのに、非常に浅く、「ただみんなのところを一生懸命回った」というのが回答だというのが、ちょっと物足りないなど。それから「ブースター」という言葉が非常に耳に残ってくるんですが、これをファンと言わずブースターと言わせているのは、何かやっぱり戦略があるのかなとか、そういうバスケット業界に対するイメージ戦略みたいなものを彼が意識しているんだとしたら、そこら辺も聞いてほしかったなど。

野球とサッカーと比較して、バスケの場合、競技人口と人気がリンクしていないというところに切り込んだという、このところは非常にいい指摘だなと思ったんですが、それは、彼が他のスポーツビジネスを手掛けてきたから、岡本さんならではの違いというか問題点を把握できたということがあるんだとしたら、そこももっと深く掘り下げていただきたかった。たとえばサッカーにはジュニア・ユースチームなんてありますよね。「でも今までどこのバスケットボールチームはどこも持っていなかったんですよ。でも僕はサッカーのそういうのを見てきて、やっぱりこれをつなげたら、アカデミー事業としてなっていくという発想が生まれたんです」となると、そこに岡本さんのキャリアが生きてきたということが非常によくわかるわけですね。そういうことがなかなかつながっていなかったのも、ちょっともったいないなど。それから言葉の中に「ブレイクスルーしていかなきゃ」とかバリューとかコラボレーションとか、そんなに英語じゃなきゃ説明できない言葉ではない、 unnecessaryな英語がたくさんはさまれているところが集中してあって、そこは気になりました。私もそう言っているながら自分の動きが気になったんですが、手の動きがあまりきれいじゃないです。岡本さんの手の動きの方がはるかにきれいで、何か大げさにこういうアクションが非常に目立って、それがご自身なりディレクターの方が、もう一回 V を見ていただいて研究していただいた方がいいなど。それから目線は、やはりまとめは、目線はカメラ目線で、説得力あってやってほしかったのに、最初の方とか下を向いていらっちゃって、どうしたんだろうと思ったら、別カメを見ていらしたんですね。じつと同じ固定カメラだけしかなかったら、絵が耐えられないというのはわかるんですけど、その目線が下だというのは、やはりちょっと説得力が。カメラの高さが違ったのか、ちょっとそれはもったいないなど、画像構成として、私はなんとなく感じました。質問として一つ、下インタビュー、調査はキャスタ



一の方が自らなさっているのでしょうか。それともキャスターの方はそういう素材をもらうだけで、ご自分では調べていらっしやらないのかということ、後で教えていただきたいと思います。それから、アカデミーにも現役選手も、小学校へ行って参加しているような、今日のダイジェストにはありませんでしたが、絵があったような気がして、普通プロのサッカー選手は、自分たちのスキルを磨くことと、試合に出ることに精いっぱいなので、もしバスケ選手の場合、このチームがそういうことをやっているとしたら、それはアカデミー事業の重要性とか、企業の再建も、「自分たちも担っていかなきゃ」という意識があって、そういうところにも参加してくれていると思うんですね。もしそれが事実だとしたらそれを説得している岡本さん、会社の方針は十分に魅力ある施策だと思うので、そういうところも掘ってほしかったなと思いました。あと内容について問題としては、業界共通とも思える、いわゆるバスケ業界、Bリーグの集客力を高める的な戦略と、多分大手の今までの実業団ではない、このチーム固有の会社としての経営戦略とがあると思うんですが、その後者の企業破たんしてしまったような弱小だったチームが、ここまで頑張っているんだということが、もうちょっと本編のチームにはない経営手腕。チームとしてのプロフェッショナルのスキルではなく、経営の部分ですから、そこの話がもうちょっと盛り込まれてもいいのかなと。皆さんいろいろご意見がありましたが、私はこの番組のコンセプトはスポーツ番組でもなければ、バスケ人口を広げるということでもなくて、神奈川県内のいろんな意味のユニークな取り組みを紹介するという番組なので、そこを非常に意識して切り分けられたという今回の制作意図は、十分伝わってきましたし、それは非常に良かったと思います。将来これが、今は150社と伺いましたが、たまっているということであれば、出版事業とかそういうことにも結び付けられたら。ビジネスに。経営ものなので旬な時間が短

いですけど、古くならないうちに、そういうことも検討されたらいいかなと思いました。以上です。

山田委員長

ありがとうございました。それでは私も意見を述べさせていただきます。私も中学生時代バスケットボール部に入っておりまして。あのころは体育館ではやなくて、土のグラウンドでやっていました。雨が降ると、部員がいち早く学校へ行って、コートを全部ロープで、他の登校生が入らないようにやるんですね。これが下級生の役目で、そういったこともあり、この番組は大変興味を持って拝見させていただきました。番組そのものは非常にまっとうな内容でして、インタビューをする方、内田さんですか、ゲストの岡本さんが非常に清潔感があって、話し方も非常に上手だったんですが、ただまっとうすぎて、二人とも袴を着て、お城の奥の座敷で話をしているような、そんな印象を受けました。もちろん経済的なことを対象としてやるものですから、あまりふざけた内容にしてはいけないんですが、ちょっと中身については、皆さんお話ししていたように、ちょっと物足りない部分がありましたよね。客を増やす具体策ということがあげられましたが、これに対してゲストは、「アカデミーを」と。このアカデミーということ自体も、映像ではわかりましたけど、これは客を増やすためのごく一部であって、もっとやるべきことがあるんじゃないかな、という感じを受けました。私は息子が高校、大学、社会人としてアメリカンフットボールをやっていたものですから、10年間追っかけていろいろな試合を見に行きました。アメリカンフットボールというのは、関東より関西の大学の方が大変熱心で、お客もたくさん来るんですね。私が息子の高校・大学時代を見ていると、大きなスタジアムにも観客はまばら。ところが関西の方は立命館とか京大、関西学院大学とか強いところがあったんですが、やはり客がたくさん入っている。「どうしてこの違いがあるのかな」と思いましたら、一度関西に行ったときに手

作りのポスターを大阪環状線とか、阪急電鉄、近鉄の駅に全部貼ってあるんですね。手づくりですからそんなにお金はかけていない。非常に泥臭い方法で、いかにアメフトが素晴らしいかということを訴えているんですね。このバスケットもプロとアマの相違はありますけれども、そういう泥臭さをもうちょっと發揮して、PRして観客を増やすということに。これ、インタビュアーが、そこまで持っていくような質問をしなくてはいけないんじゃないかなと思います。アカデミーだけで答えを終わらせていますね。それで一つ気になったのは、もう少し体育会系の匂いを出してもいいんじゃないですかね。ちょっとスマート過ぎた番組のような気がしました。「勝つため」が成功だと言っていました、では勝つために何をするのかということ、インタビュアーはゲストに鋭く迫らなければならないかと思います。それから採算のことを言っていましたね。資金集めのこととか、いろいろ言っていました。これは、今度は番組を作る側として、他のチームの台所事情はどうなのかとか。横浜には非常に手本になる企業がありますね。これはやはり DeNA ベイスターズなんですよ。これは今期ものすごい、クライマックスに行きましたけど、ものすごく、かつて TBS がやっていたころ、あるいはそれ以前のマルハですか、大洋漁業さんがやっていた時代に比べて、非常に若い経営者の感覚でやっていて、あれだけの観客を集めたんですね。そういうことを番組の中で紹介しつつ、「じゃあ、どういうふうにしたら、経営的に成り立つのか」ということを、30分という枠があるので大変難しいですが、そういうことを取り入れてほしかったかなと思います。インタビュアーの内田さんが、最後に熱く語っていましたが、あれはインタビュアーが熱く語ってはダメだと思います。それはインタビューしたゲストの人がそういうことを語って行って、その番組を終わらせるようにしなくてはいけないかなと思っています。いずれにしても、こういう非常に堅いというか、まじめな番

組で、いろいろ経営者じゃなくても参考になる視聴者が多いと思いますので、こういうものはきちんとこれからも、いろいろな分野から集めて続けていってほしいなと思っております。以上です。他に何か言い足りなかったことは。

吉川委員                   ごめんなさい、忘れてました。

山田委員長               はい、どうぞ。

吉川委員                   皆さんおっしゃっていましたが、「ビジネスのヒゲ」は、本当に相変わらず面白くて、見つけてくるのは大変だと思うんですが、是非見つけていらっやっている方にエールを送りたいので、付け加えて「素晴らしい」と言わせていただきます。

山田委員長               それでは神谷さんの方からいろいろ反論、それから質問への答えがあると思います。よろしく願います。

神谷ディレクター       すごく参考になるご意見をありがとうございます。反論という部分は正直一つもなく、すべておっしゃっていることは、私も認識をしております。これが議事録としてオープンになると、少しあまり僕としては快くないぐらいな裏状況だったりもあるんですが、お答えできる範囲でできればと思います。まず最初に布施さんがおっしゃっていただいたバスケ人口、バスケに関わらない部分。奥さんであったりとか、全くボールを触ったことのない人に、どれだけ伝えていくかという部分では、なかなかビー・コルセアーズとしていろいろ工夫しているなど。紹介しきれない部分がかかなりありまして、試合に来てくれた方々に対して、「初心者だ」という認識で毎回プレーの解説をしたり、「誰々がこういうことをしてやった」とか、そういうことをやっているそうです。やっていました。実際そこまでは使用の制限があったので、できなかったんですが、そういう意味では、やっていなくても何かバスケに興味を持ってもらう施策はやっています。プロ球団として、なかなか参考になる部分はあるんですが、いくつかひと

つひとつお答えできればと思うんですが。熱闘倶楽部との関わりの部分につきましては、かなり横浜のスポーツチームを応援しようという団体の応援もかなりありました。JCの方だったりとか、そういうつながりからサポート、ある意味資金調達してきた流れはあるんですけども。ある意味、熱闘倶楽部を出すことによって、他のチームの説明もしなくてはいけなかったりとか、そういう部分で少し見にくくなってしまいう懸念があったので、私の方でカットしてしまったという部分があります。日程のテロップは、正直やればよかったなと思いました。再放送というところもありながら、実際土日に多くバスケの試合をしているので、「明日もあります」という形で、テロップができたらというのは思いました。あまり宣伝になりすぎず、かといって応援したいという気持ちもありますので、そのバランスを今後考えていきたいと思っております。「Bリーグ全体として、何を考えているのか」というところは、Bリーグという団体自体も紆余曲折がありまして、分裂をしたりとか。あくまで実業団、プレーする選手がメインだという歴史がある中で分裂をして、国際連盟から「おまえら、試合に出るな」という勧告もあった中で統一をしたという背景は、もう少し説明しても良かったかなと思います。いろんなサービスだったり、やはりバスケの可能性は室内というところなんですね。コート範囲がそれなりに狭い。野球、サッカーほどではないという部分で、音楽や映像だったり、改めてショービジネス、ショーアップしていくという可能性はあるんだということは、岡本社長もおっしゃっていたので、我々もその部分は期待したいところです。実際にDeNAの池田社長は、ちょうど一年前の3月にご出演していただいて、プロ野球開幕直前で、私が担当させていただいたんですが、やはり似たような考え方をお持ちだったので、あれは5年目である結果という部分では。なかなか岡本社長もそこはわかっていて、「今ここで、勝ちって言えるような状況ではない」というご認

識を、インタビューの中でおっしゃっていました。「正直、勝ちなんて言えないよ」と。「少なくともファイナルには進出するけれども、優勝なんてことは、僕の中では恥ずかしくて言えない」とおっしゃっていたので、その部分は物足りないな、というのは我々としてもあったんですが、それが2年3年、そして5年続く中で、優勝というのが見えてきたときに、今のこの言葉が生きてくるのかなというところで、期待をしているところです。バスケット人口は、あまりしっかりしたソース、出典がないので、正直名言できなかったんですが、世界ではある意味野球を超えるとか、日本で400万人だ何百万人だというデータもある中で、正直可能性はかなりあると思っているので、岡本 CEO がとげを出していく。ある意味アカデミーだけではないんですが、アカデミー以外の障害者に関わっていただくとか、選手自らがそういう意識を持って、我々はまだサッカーに、野球に劣っているんだという部分で、ある意味課題を持ってやっているという部分で、ご紹介できればと思っておりました。企業の選定基準ですが、実際「ビジネスのヒゲ」とメインのインタビュー、20分強やるコーナーに関しては、ものすごくはっきりしたものではないんですが、あくまでメインのインタビューに出ている企業さんに関しては、テーマだったりとか、その時の業界の状況をお話いただけるような方をお呼びしたいという思いで。我々のお付き合いのある営業部だったりとか、それこそいろいろな団体さんとお付き合いをさせていただいていますので、プロデューサーの大谷の方が判断して、やらせていただいています。企業の、例えば今回の B リーグ開幕というタイミングだったり、企業の何周年というタイミング。前々回の放送回では、障害者の方の雇用に力を入れている企業で、そういうキャスティングをしてブックイングをしています。内田さんに関しては、経済ジャーナリストという立場上、現場、むしろファクト、今あることがすべてだという立場なので、極力取材、ロケはお

越しいただけるときは来ていただいています。実際スタジオで初めてお会いするという場合も、なかなかスケジュールが厳しいときもありますので、その場合には、我々が資料を送ったり、内田さん自身もいろいろ調べて当日に臨んでいるという状況です。あとは課題の方もありますので、いただいたご意見を参考に、内田さんともコミュニケーションを取りながら改善をしていきたいと思っています。

山田委員長 神谷さんから、いろいろ丁寧に説明していただきましたけど、他にこれについて何かご意見はありますか。一つよろしいですか。これは30分の番組にするためにいろいろ編集すると思いますが、これは全部一発本番ですか。

神谷ディレクター そうですね。インタビューに関しては、ちょうど今隣のスタジオでやっていますが、1時間、2時間ほど。

山田委員長 と申しますのは、先ほど吉川さんも話しましたように、ものすごく横文字が多いんですね。それがものすごく視聴者に伝わっているかというような危惧がありまして。横文字さえ使えばなんとなくビジネスのあれになるというような。もう少し優しい言葉で、誰もがわかる言葉でできないのかなという感じがいたしました。それで、そのインタビューのさなか、ディレクターの神谷さんがストップをかけて「そののところ、もうちょっとこういう言い方で」というサジェスションはできないんですか。

神谷ディレクター そこは気を付けながら、言葉の細かい部分ですけど。

山田委員長 サッカーはサポーターといいまして、アメリカンフットボールやバスケットはブースターと言います。どちらなのかなというあれがありますが、他にもちょっと気になった言葉があったんですが、言葉は文章を書くときも同じなんです、誰が読んでも、誰が聞いてもわかる言葉で表現することが大切ですね。インタビューの最中でも、ストップをかけて「ちょっとこの言葉は」という形にしてい

ただければ、番組がもっと中身の濃いものになるのではないかな、という感じがいたします。他に何か。

伊藤委員 番組全体の企画に関することなんですが、ビジネスということで、もちろん商業的な営利追求という、企業なんですが、今までの150何社の中で、たとえばそうではない切り口からビジネスをやっている NPO とか特別行政法人とか、そういうのを使ったケースはあったんですか。

神谷ディレクター 一般社団法人であったりとか、NPO に近い形の存在の方たちにもご出演していただいたことはあります。

伊藤委員 そういう意味では、あまりそういう。

神谷ディレクター そうですね。企業、ビジネスの参考になったり、エッセンスという意味で、何かヒントが企業であったりとか、そういう部分で見ているところもあります。株式会社、有限会社に限らずという部分では、出させていただいております。たとえば行政のトップの方にご出演いただいたことはあります。

伊藤委員 冒頭で「県内にこんな企業がある」と紹介する、とおっしゃっていますが、そういった意味では、僕は自分のジャンルでいうとアートシーンでビジネスに直結したり、営利目的ではないんですが、非常にスリリングな命がけでやっている方とか、いい例が県内・市内にたくさんありますので。それがこの番組にはまるケースがあれば、扱っていただくのもいいのかなと。

神谷ディレクター リサーチに関しては、我々は私ともう一人のディレクターで、3人スタッフがおりますので、情報をいただければ、よろしく願いいたします。

山田委員長 他にございませんか。ないようでしたら、3番目、その他報告事項に移りたいと思います。まず視聴者対応の方からお願いします。

玉村編成部長 「視聴者対応について」、こちらの表裏です。この一ヶ月間で頂いた E メールが7500件、お電話は500件弱でございます。今回わりと好意的な意見が多



くなってしまったので、ネガティブな意見もないかなということで探しましたが、土曜日の夜8時にやっております「サタミンエイト」について「面白くないんじゃないの」というご意見の方が一人いらっしゃいました。ビー・コルについて一人書いていらっしゃる方がいました。各番組に対する E メール分類はこちらのグラフも参照にしてください。それから今回は、放送法の第6条および107条で定められています、放送番組の分類についてのご報告を一枚入れさせていただきますのでご覧ください。最後に議事報告に入ります前に、通常お話しすべきなんですが、皆様のお手元に「BPO 報告」をお配りしております。今回は人権委員会の方でテレ朝さんの案件が勧告を受けたという件等、がこちらに書いてございます。BPO については人権委員会、倫理委員会、青少年委員会の3つの委員会があるのは、よくご存知かと思しますので、それぞれについて別個に審議を行ったり活動しております。そういったことを踏まえた上で、この報告もお目通しをいただければと思います。よろしければ以上です。

山田委員長            ありがとうございます。事務局から視聴者対応と放送事項別分類について説明がありましたが、これについて、何かご意見ご質問等ございましたら。はい、どうぞ。

吉川委員              放送時間帯別の放送事業法に基づくご説明なんですが、今年度は昨年度と比べて構成比は変わっているんでしょうか。

玉村編成部長        あまり変わっておりません。

山田委員長            他にございませんか。よろしいですか。ないようでしたら、前回の番組審議委員会の議事報告に移りたいと思います。

#### 議 事 報 告

山田委員長            時間も押し迫ってきました。今日の議題はこれですべて終了いたしました

事務局の方から通達事項がありましたら。

玉村編成部長

次回のお知らせです。12月は休会でございます、来年1月第3週目の17日火曜日の午後2時になりますので、よろしくお願いいたします。なお、視聴合評につきましては、先ほどもちょっと話題にさせていただきましたが、深夜になりますが、年越しの番組「おまえ、テレビでてるってよ！」をご覧いただきまして、ご意見を拝聴したいと思っております。深夜でございますが、なにとぞよろしくお願いいたします。

山田委員長

今日は、今年最後の番組審議委員会ですが、他に何かご意見等はありませんか。ないようでしたらこれにて閉会とさせていただきます。